

歯周炎患者におけるインプラント隣在歯の有無と臨床的パラメータの長期的検討

日時：平成29年9月22日(金)

場所：仙台

関 啓介（東京都）



この度は第46回日本口腔インプラント学会学術大会におきまして、名誉あるデンツプライシロナ賞を受賞させていただき大変光栄に存じます。平素よりご指導頂いております田中譲治会長ならびに日本インプラント臨床研究会会員の諸先生方にこの場をお借りして厚く御礼申し上げます。

本研究は歯周病既往患者を対象にインプラント埋入位置や隣在歯の有無を調査し、臨床的パラメータとの関連性を評価することを目的としました。

インプラント94本(平均メインテナンス期間5.5年)

を対象とし検討した結果、孤立状態のインプラントは、隣在する天然歯やインプラントが一側にある場合に比較してプロービングデプスや骨吸収量が有意に悪化しており、インプラント周囲病変の進行には炎症性因子のみならず咬合力の負担過重も関与していることが示唆されました。不明な点の多いインプラント周囲粘膜病変の病因を解明するべく、今後も研究を続けてまいりたいと考えております。